

氏名 小笠原 邦昭

所属 岩手医科大学附属病院

役職 病院長

医学生へのメッセージ

岩手医科大学の建学の精神「誠の人間の育成」は附属病院の理念でもあり、病気だけではなく“人”を診る患者中心の医療の実践こそ本大学附属病院が提供する医療の原点です。一昨年9月に現在の新附属病院に移転し、最新の医療設備と医療機器を備えました。また、盛岡市内の旧附属病院は内丸メデイカルセンターとして生まれ変わり、従来の外来に加え総合診療科、応急外来、日帰り手術等の新たな試みも始めました。両病院では、研究・教育能力を有する約3,000人の医療スタッフが勤務しており、標準的医療の提供に加え、先進的な医療も提供しております。

大学病院は、診療、研究、教育の3本柱が互いに作用を高めることで相加・相乗効果が発揮できます。研修医制度の導入の基本はプライマリ・ケアができる医師の育成です。プライマリ・ケアって？その心は「誠の人間であれ」です。何が専門であろうと医師は「目の前の患者を診る」のが基本です。「私は〇〇の専門だから他は診ない」は単なる医師のわがままです。種々の観点から幅広い診療を学び、そして、研究する心、学生に教えるという姿勢を兼ね備えることこそ、将来、患者に信頼される、患者のための医療が提供できる良医になれる王道だと思います。岩手は地域医療を学ぶにはうってつけの地です。岩手医科大学のプログラムには「たすきがけ」など県立病院などの地域の病院での研修ができる多くの工夫が施されています。“評判が良く研修医が集まる病院”での研修も魅力的だと思いますが、岩手医科大学プログラムは研究、教育も含んだバランスのとれた素晴らしいものであると自負します。しかし、どんな立派なプログラムであってもそれを生かすか殺すかは本人次第です。是非、積極的な研修を行ってください。自ら動くことで学びは始まります。これは初期研修に係わらず医師であれば生涯必要な心がけであることを理解し、研修医の時代から体に染み込ませて下さい。また、研修医は“研修”という接頭語がつきますが、患者からあるいは国民から見れば“医師”です。

研修医であっても皆さんの一言は患者さんに夢と勇気を与えます。岩手医科大学附属病院の研修で力を付け、また「医師を楽しむ」ことをお勧めします。